

2021 年度研究計画書

- 1) 採択課題：中東国際政治における主要地域大国と域外大国の関係をめぐる実地調査と対話
- 2) 研究代表者名 池内恵（先端科学技術研究センター・教授）
- 3) 2021 年度研究計画(400 字から 800 字程度)

①海外渡航する場合

2 年度目となる今年度は、新型コロナ禍による国際研究交流活動が、国境を越えた渡航を復活させた形で推進できるか否かが不透明である。年度内に海外渡航が可能になる可能性がある程度想定できる国として、迅速な大規模なワクチン接種によって短期間でコロナ感染を抑え込んだイスラエルを、主要な渡航先と想定する。渡航先の研究機関としては、イスラエルのテルアビブ大学モシェダヤン中東アフリカ研究センター（MDC）、エルサレム・ヘブライ大学人文学部、ヘルツリヤ学際センター（Interdisciplinary Center Herzliya）を予定する。2021 年 12 月に、研究者を選抜しイスラエルに渡航し、これらの研究機関との国際学術大会を開催する。

テルアビブ大学 MDC との間では、「アブラハム合意」によるイスラエルの国交樹立の流れが、米国のバイデン政権の下でも持続するか否かを中心に、中東諸国の対イスラエル外交を分析する共同研究を推進する。エルサレム・ヘブライ大学との間では、「アブラハム一神教」の相互関係、および一神教と多神教の比較分析を中心とした、宗教哲学の研究ネットワークを構築する。ヘルツリヤ学際センターとは、特にそのアジア・プログラムと共に、イスラエルの対アジア接近に関する現状分析と提言を行う。

上記の成果に基づき、創刊される予定の GSI シリーズへの出版プロポザルを、年度末までに最低 1 件、可能であれば 2 件提案する。

②海外渡航ができない場合

イスラエルは新型コロナ禍の押さえ込みに目覚ましい成果を挙げているが、変異株等の新たな要因の介在によって更なる感染の波が及ぶ可能性もあること、また紛争の勃発による渡航の困難が生じることが想像に難くないため、海外渡航が年度内に行い得ない、あるいは行うことを回避することが望ましい事態も想定される。その際は、2020 年度にすでにイスラエルの諸機関との間で開催した実績を踏まえ、オンラインによる国際学術会議を開催する。テルアビブ大、ヘブライ大、ヘルツリヤ学際センターとの間で、オンラインでの共同研究の枠組みを制度化し、恒常的なオンライン研究会の開催を行なった上で、2022 年 2 月にオンラインの国際学術大会を開催する。

テルアビブ大学 MDC との間では、「アブラハム合意」によるイスラエルの国交樹立の流れ

が、米国のバイデン政権の下でも持続するか否かを中心に、中東諸国の対イスラエル外交を分析するオンライン研究会を複数回実施した上で11月前後にオンラインで国際学術大会を開催する。エルサレム・ヘブライ大学との間では、「アブラハム一神教」の相互関係、および一神教と多神教の比較分析を課題とする連続セミナーシリーズを開催した上で、2月前後に国際学術大会を開催する。ヘルツリヤ学際センターとは、特にそのアジア・プログラムと共に、イスラエルの対アジア接近に関する現状分析と提言を行う国際ラウンドテーブルを9月前後に開催する。

テルアビブ大、エルサレム・ヘブライ大、ヘルツリヤ学際センターとの交流事業について、担当の特任研究員を割り当て、週のうち1.5日から2日程度を国際研究交流の実施・運営に専念させることで、リモートでの国際学術大会を実現する。

上記の成果に基づき、創刊される予定のGSIシリーズへの出版プロポザルを、年度末までに最低1件、可能であれば2件提案する。